

指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:令和6年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	建設部都市・まちづくり課(安曇野建設事務所)
指定管理者	一般財団法人 公園財団

1 施設名等

施設名	長野県烏川溪谷緑地	住所 電話 ホームページ	長野県安曇野市堀金烏川26 0263-73-0203 http://karasugawa.com/
-----	-----------	--------------------	---

2 施設の概要

設置年月	平成14年4月	根拠条例等	長野県都市公園条例
設置目的	住民福祉の増進に寄与することを目的として、貴重な自然環境の保護・保全に配慮し、一般住民に自然とのふれあい、自然体験・学習、レクリエーション、文化活動などの場を提供するため。 この目的達成のため、行政と市民との協働による緑地の管理・活動を実施。		
施設内容	水辺エリア:環境管理棟、トイレ、駐車場、園路、溪流園地、あづまや、展望台、ビオトープ 森林エリア:森林学習棟、あづまや、森林トイレ、駐車場、園路 開園面積:49.67ha		
利用料金	無料		
開所日	・管理事務所開所日:4/1～12/28、1/4～3/31(閉所日は12/29～1/3) ・トイレ4箇所冬季閉鎖(12/1～3/31)		
開所時間	・管理事務所開所時間:8時30分から17時15分まで		

3 現指定管理者前の管理運営状況

期 間	管 理 形 態	管理受託者又は指定管理者等
～平成21年度	直営	—
平成22年度～24年度	指定管理	(一財)公園財団
平成25年度～29年度	指定管理	(一財)公園財団
平成30年度～令和4年度	指定管理	(一財)公園財団
令和5年度～令和9年度	指定管理	(一財)公園財団

4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	(一財)公園財団	指定期間	令和 5年 4月 1日 ～令和 10年 3月31日(5年間)
選定方法	公募(応募者数:1)		

5 指定管理料(決算ベース)

令和 6年度(A)	令和 5年度(B)	差(A)－(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
31,736 千円	31,730 千円	6 千円	
	増減理由	光熱費の高騰による増	

6 指定管理者が行う業務

・本緑地(備品等を含む)の維持管理、利活用に関する業務及びこれに付帯する業務 ・「烏川溪谷緑地市民会議」の運営、活動等に関する業務及びこれに付帯する業務

7 利用実績等

(1) 利用実績【指標:利用者数・利用件数・稼働率】 (単位:人、件、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和 6年度(A)	2,450	3,440	2,400	4,600	12,690	3,380	2,120	1,870	670	620	580	860	35,680
令和 5年度(B)	2,820	3,580	2,510	6,280	11,220	3,970	2,040	1,130	490	460	510	710	35,720
(A)/(B)	86.9	96.1	95.6	73.2	113.1	85.1	103.9	165.5	136.7	134.8	113.7	121.1	99.9

(様式2)

増減要因等	第1四半期 4月は、前年度と比較して雨天日も少なく平均気温も若干高かった。曇天の日が多く不安定な天候だったため、出足が鈍り利用者数減となったものと思われる。ゴールデンウィーク期間中においては、前年度同時期と比較し天候状況も平均気温も同等程度であったが、期間中のカレンダーの並びにより、昨年よりも休日が1日少なかったことなどが利用者数減の要因の一つと考えられる。6月は、昨年より天候に恵まれたものの、週末の雨天日が多かったため利用者数減となった。 (前年度比93.0%、620人減)
	第2四半期 7月は、初旬から中旬にかけて、天候不順の日(雨天または曇天)が多かった事が、利用者数減の要因と考えられる。 8月は、昨年に並ぶ記録的な猛暑日が続き、お盆前の3連休(8/10(土)から8/12(月・休)、及びお盆休み6連休(8/13日(火)～16日(金)、17日(土)・18日(日)と最大9連休の大型連休となり、期間中、天候に恵まれるなど好条件が重なり、下旬の台風10号の影響による若干の利用者数減となったが、昨年度と比較して利用者数が増加したものと考えられる。 9月は、昨年度と比較し、天候不順となる日数は少なかったものの、降雨日5日のうち2日間がいずれも連休(9/14～16、9/21～23)の中日の土曜日、日曜日に当たり、天候不順が利用者数減の要因となったものと考えられる。
	第3四半期 10月は、昨年度同期間と比較して、終日雨天日が7日間と多かったものの、全て平日であり、土日祝日は比較的好天に恵まれ、利用者数増に繋がったものと考えられる。11月は、後半に気温が急激に低くなったものの、気温の高い日が多く天候にも恵まれ微増となった。また、隣接する国営アルプスあづみの公園のイルミネーション開催期間中の平日開園時間が9時30分から14時30分に変更となり、午後からの開園時間変更を知らずに来園した利用者が時間をもてあまし、烏川溪谷緑地を訪れる利用者数が多くなった。また、当緑地初の企画展「頭骨は語る」実施(11月1日～4日の来場者数75名)も利用者増の要因の一つと考えられる。12月は、前年と比較し月平均気温は低いものの、最低気温が氷点下の日は1日で、比較的暖かい日が続き天候に恵まれた。また、11月に続き、国営アルプスあづみの公園のイルミネーション開催期間中の開園時間変更の影響もあり利用者数増の要因となったと考える。(前年度比127.3%、1000人増)
	第4四半期 1月は、利用増の要因として、昨年度に比べ雨天日が少なかったこと、平日の降雪は多かったものの、土日祝日における降雪日が少なかったことが挙げられる。また、国営アルプスあづみの公園のイルミネーション開催期間延長による開園時間変更に伴い、開園時間前に立ち寄り利用者が多かったものとする。2月は、月初旬は曇天、降雪により利用者数は伸び悩んだものの、中旬以降は週末も含め晴天率が高く昨年を上回る利用があった。3月は、天候不順の日が半月以上を締めたものの、平均気温が昨年度と比較し高く、晴天日の利用者が好調で昨年を上回る利用者数となった。 (前年度比122.6%、380人増)

(2) 利用料金収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和 年度(A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和 年度(B)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(A)/(B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
増減要因等													

(3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
有・ ☒	

(4) 開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和6年度(A):359日	令和6年度(A): 8:30～17:15	有・ ☒	令和6年2月は閏年のため、1日増
令和5年度(B):360日	令和5年度(B): 8:30～17:15		

(5) サービス向上のため実施した内容

・ビジターセンターとしての機能強化策として、レクチャールーム(展示室)の剥製等標本の追加制作及び解説作成、展示ガイドの実施やSNSによる旬情報発信、園内ガイドを実施した。 ・ガイドを求めない利用者のためにセルフガイドを作成し提供した。(紅葉、冬芽、木の実、鳥の羽、樹皮、きのこ等) ・レクチャールーム(展示室)で小さな子供でも楽しみながら学べるよう、動物足跡スタンプラリーやクイズを実施した。 ・安曇野市や近隣の学校団体への環境学習対応を実施した。下見実施時に希望する学習内容及び実施方法を確認し、団体ごとのニーズに応じたきめ細やかな利用対応を行った。荒天時は雨天プログラムや出前講座の実施、時間短縮プログラム等の提供を行った。 ・ゴールデンウィークやお盆期間の繁忙期における円滑な駐車場利用を行うため、誘導員を配置し誘導整理を行った。 ・日々の園内巡視の実施により、園内情報、自然情報の収集、把握に努め、レクチャールーム(展示室)及び園内でのインタプリテーションによる自然解説の実施等単なるガイドとは異なる案内の実施に活用した。 ・国営公園と連携し、ツキノワグマ出没情報等の共有を図った。 ・ホームページやSNSにてイベント開催告知、ツキノワグマ出没情報、伐採作業等に伴う通行規制などタイムリーな情報発信に務めた。
--

(6)その他実施した取組内容

・利用状況に応じてトイレ清掃を高頻度で実施したほか、手洗い場に生花を飾るなど快適かつ清潔なトイレ環境維持に努めた。 ・日々の巡視作業実施時において、通行や利用の支障となる樹木、落枝、枯損木等を処置し、直ちに処理できない場合には通行規制等を行い利用者の安全確保に努めた。 ・バーベキュー利用希望者には火気使用できないことを丁寧に案内するとともに、近隣のキャンプ場などバーベキューが実施可能な施設を案内した。 また、火気使用を確認した際には、利用者が不快とならないよう配慮し指導を行い、後片付けの徹底と、野生生物対策や景観保全、環境保全へ理解を求める取組、利用指導を実施した。

(7)利用者の主な声及びその対応状況

ご意見、要望	対応状況
○利用者へのアンケート調査結果でのご意見・要望等	
・お気に入りの場所です。季節の動植物などHPでどんどん発信してほしい。 ・川遊びが楽しかった。 ・屋外はよく手入れされ、歩きやすかったり、レジャーシートが敷きやすかったり、とてもいつも感謝しています。今日は展示室も楽しめました。 剥製の作り方を教えて下さりありがとうございます。また来ます。 ・目的によってオススメコースなどがあると、より散策しやすいかなと感じました。とっても気持ち良い散策になりました。 ・自然がいっぱいあって、水がきれいだから、めずらしい生きものが見られてすごく良かった。また来たいです。 ・自然がいっぱいあって、森の空気がいっぱい吸えて良かった。 ・緑がとてもきれいでした。展示物とても興味深いです。 ・サルと遭遇した時に、どのように対応したらよいのか、留まっている観光客の方を見かけたことがあるため、アドバイスの看板とかあれば良いのかなと思いました。 ・ペット連れの入園は辞めた方がよい。 ・カタクリのあるトイレを直してほしい。 ・枯損木処理や危険箇所の改修に注力されているように感じる。感謝です。 ・樹木、植物の看板がありがたい、充実を望む。 ・クマが怖い。 ・スタッフが親切で有難かった。 ・展示物の充実、楽しかった。 ・ボランティア情報についてHPで確認できれば良い。 ・管理が行き届いていて安心して楽しめる場所です。	・その季節の植物・昆虫等随時「X」にて発信。 ・案内ガイドが伴わない利用においても散策しやすい環境づくりのためセルフガイドマップ等の充実を図る。 ・サル対応についてはその都度スタッフが対応しているが、各入口等での注意喚起、案内の方法等について検討する。 ・多様な利用ニーズに対応できるよう、利用者お互いの理解を深める取組を検討し実施する。現状ではリード着用の義務化、糞の持ち帰り、尿によるマーキング箇所の洗流し推進のため専用水ボトルの貸出を実施。犬連れの方も連れていない方も気持ちよく過ごせる環境づくりに務めている。 ・トイレについては順次修繕を行っています。 ・ツキノワグマ対策については長野県、安曇野市、隣接する国営アルプスあづみの公園等と連携を図り安全管理の徹底に務めている。 ・登録型のボランティア活動の取組を実施している。 今後、新たな市民協働のあり方、導入の方法等、持続可能な活動推進について検討する。
○行事開催について以下の要望、ご意見があった	
実施内容について	
・実務的でためになる。勉強になった。知らない話が聞けて良かった。楽しかった。 ・少人数でじっくりできて良かった。貴重な体験だった。有意義な時間だった。 ・講義内容はネット情報では得られない体験です。 ・講義のみでなく実地での学習は興味が深まる。 ・無料がうれしい。無料なので気軽に参加できて良い。 ・有料でもよいので回数を増やしてほしい。 ・田植え、稲刈りなど農繁期は参加が難しいので外して企画してほしい。 ・お盆やゴールデンウィークでの開催希望。 ・国営公園との差別化を図り色々実施してほしい。	・行事開催のご意見・要望を受け、今後の行事開催に向けて、今後の取組への更なる強化と実施企画への反映を検討する。
運営等について	
・いつもすばらしい。職員も熱心で頭が下がる。 ・毎回興味深い内容とすばらしい運営に感謝。今後も末永く継続を願う。	
○今後取り上げてほしい題材、内容について	
(植物等) ・木材を使ったワークショップを開催してほしい。 ・季節ごとの植物、樹木、コケ、地衣類の観察。樹木の見分け方。 ・バードカービング。・染色。 (動物) ・昆虫観察、リス、モモンガ、コウモリ、クマ、川の魚、ムササビ、両生類、粘菌 フクロウ、チョウ学習会等 ・サルやシカの増加と自然との関係について。 ・川の観察 様々な生物について。・剥製の制作方法。 ・土中の生物 (その他) ・里山林の成り立ちや維持について。 ・烏川独自の石、岩、地層について。	・多種多様な行事開催への要望や提案を頂戴し、今後の行事開催に向けて、今後の取組、実施企画への反映を検討する。

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)

※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指 定 管 理 者	所 管 課	
			評価
施設の目的に沿った管理運営	・園内利用においては、心癒される緑地を提供するため、スタッフの挨拶をはじめ、利用者への適切な利用案内を実施するとともに、気持ちよく過ごすことのできる環境づくりのため、園内清掃の徹底により、安全で清潔な利用環境の維持に努めた。特にトイレ清掃においては、スタッフが持ち寄った季節の生け花装飾による美化活動を積極的に実施した。 ・利用者の安全・安心を第一に、巡視の際徹底した支障樹木、支障枝、枯損木の除去により利用者安全の確保を行った。 ・烏川の貴重な自然を守り、動植物の保全・育成活動を推進するため、緑地スタッフ1人1人のスキルの向上に向け、経験豊富なスタッフによる学習会を毎月程度開催し、知識の向上に務めた。 植物管理においては、経験豊富なスタッフ同行による作業を実施し、保全・育成の取組として、除去すべき植物、利活用すべき植物や動物・昆虫等が利用する植物など、きめ細やかに対応するため、情報共有を図りながら維持・管理作業を実施した。 ・地元近隣の安曇野市をはじめとする学校団体利用の校外での環境学習活動実施において、河川、樹林等緑地の自然資源を活用し、自然体験型環境学習の場としての利活用及び普及啓発に努め、質の高い環境境域プログラムの提供を行った。 ・近隣宿泊施設との連携による取組として、個人や宿泊団体客への自然ガイドの実施により、安曇野の豊かな自然環境を学ぶことのできる取組を行った。 ・夏期の川遊び利用における堰堤からの飛び込みに対し、安全確保に向けて、飛び込み禁止看板設置、利用者指導、注意喚起に努めた。また、禁止行為となったバーベキュー利用を目的として来園されたお客様に対し、丁寧に説明案内を実施するとともに、近隣施設のご案内とともに、環境保全への取組について説明し、理解を深める取組を行った。 ・障がい者就労の場の創出の取組として、長野県セルフセンター協議会の協力により、園内美化活動の取組として、園路清掃、除草作業などの活動に4箇所の施設に協力していただいた。 ・市民協働の取組と地域連携を推進するため、定期的に市民会議を開催し、市民との協働によるイベント開催、利用促進や情報収集を実施した。また、緑地内での植物調査等実施のサポートを実施した。地域連携・情報共有のため、安曇野市が主管する「国営公園、県営公園関係者会議」へ参加した。 ・長野県が推進する、クールシェアスポットへの登録により省エネルギー対策活動に参加とともに、夏期利用の促進を行った。 ・建設事務所との連携により、ツキノワグマの活動時期における利用者の安全確保、目撃情報、フィールドサイン確認による情報共有や利用制限区域の設定など迅速な対応を行った。	・協定書、仕様書及び年度計画書に基づき、施設の目的に沿った管理運営を適切に実施していた。 ・職員の自然環境及び動植物に関する専門性が高く、利用者からの評価が高い。 ・園内、特にトイレ清掃の徹底については利用者からの評判が大変良い。	A
平等な利用の確保	・ホームページや案内看板を通じて、本緑地の利用方法やルールを正確に情報提供した。 ・イベント開催において、プレスリリース、公共施設等へのチラシの配置、SNSやHPの閲覧者への情報発信において受付時期を1ヶ月前とし、申し込み者の平等性を確保した。 ・緑地内での禁止行為(山菜・きのこ採取、昆虫採集)を目的とした利用者に対し、環境保全の取組について丁寧に説明を行うとともに、後から来園される利用者にも配慮した公園利用案内による周知を図った。 ・平等利用の観点から、利用者の声を幅広く収集することを目的として「モバイルご意見箱」を設置し、継続して実施した。 ・園内利用マナー向上の取組として、愛犬家を対象としたマナー向上の呼びかけのポスターの掲示、マナー袋の配布、園地内でのマーキングを洗い流すためのマナーボトル(水)の貸し出し、無駄吠え、リード外しての川遊び禁止の注意喚起等を行った。	・SNS等を利用した情報提供をきめ細やかに行った。 ・イベント開催の際は、利用者に対する平等な利用確保に努めていた。 ・園内巡視を行う際に禁止事項の行為を見つけたときについては、利用者に対し親切・丁寧な案内を心掛け、心地よく緑地内を利用できるよう配慮していた。 ・利用者の意見に常に耳を傾け、指摘されたことに対し改善する姿勢が見られた。 ・愛犬家の園内利用マナー向上の取組を積極的に行っていた。	A

(様式2)

利用者サービス向上の取組	・公式HPを適宜更新を行い、自然資源情報やイベント情報の告知、SNSを活用した旬のきめ細やかな情報提供に努めた。 ・イベント開催において、緑地内の自然資源、環境資源を活用した企画内容を検討し、参加者の満足度の高いイベントを目標として実施した。参加者からの期待度の高い動物や植物をテーマとした観察会や著名な講師を招いて、地域の歴史文化に関する学習会など幅広いニーズに対応したイベントを実施した。 ・イベント開催において、参加者アンケートを実施。利用者ニーズ、感想を収集し、把握した情報を管理運営へ反映するための判断材料として活用し、サービス提供や改善に努めた。 ・利用満足度を図るためレクチャールームにおいて来園者アンケート調査を実施。利用者のご意見を収集し管理運営に反映させた。 ・イベント募集に際して、松本市、安曇野市の市政記者クラブの活用、協力により、毎回プレスリリースによるパブリシティによる募集記事、開催記事掲載に努めた(新聞等掲載等39件)。また安曇野市観光協会、図書館、公民館の他、近隣宿泊施設へチラシを配布し、情報提供と参加促進に努めた。 ・また、当財団が共同体代表として管理運営を行う、国営アルプスあづみの公園にてチラシを配布し情報提供と参加促進に努めた。 ・春期及び夏期における繁忙期には、管理事務所スタッフ及び専門スタッフによる駐車場誘導を行ない円滑な運営に努めた。 ・長野県が推進するSDGsプロジェクトや信州環境カレッジへのプログラム登録を行い、周知を図った。	・公式ホームページによる情報の発信によるきめ細かい情報提供を行っていた。 ・緑地の自然資源を活用した企画を多く取り入れ、幅広いニーズに対応したイベントを開催し、多くの参加者から好評を得ていた。今後も自然体験型環境教育の場として利用者、参加者から大いに期待されている。 ・緑地利用者及びイベント参加者のアンケートからニーズの把握に努め、業務改善等に反映させていた。 ・プレスリリースや安曇野市広報への掲載など利用者に向けての情報発信に努めていた。 ・国営アルプスあづみの公園とイベント等の情報共有を行い双方の利用促進に努めている。 ・近接する安曇野市のキャンプ場や温泉利用者との間の交通管理も含め臨時スタッフによる駐車場誘導を行ない、安全利用の確保に努めていた。	A
自主事業	・昨今の熱中症対策及び利用者の便益性の向上図るため自動販売機を継続して設置した。 ・緑地の資源を活用し、初心者を対象としたコケテラリウムづくり教室の開催や記念品等の販売を実施した。 ・近隣ホテル宿泊者を対象に安曇野市の優れた環境や当緑地の魅力を体験していただくため、5月～8月まで予約制によるツアーガイドウォークを実施した。	・以前より要望があった自動販売機を継続して設置し、利用者のニーズに応えた。 ・ワークショップ・イベント記念品・ガイド等の収益を管理事務所展示品維持のために活用する等、公園施設の維持及び充実に役立てた。	A
職員・管理体制	・常勤職員：6名、臨時職員：1名、計7名 ・繁忙期には臨時的に誘導警備員を配置し、体制を強化した。 ・普通救命講習修了者やサービス接遇検定取得者を配置し、安全第一に丁寧な利用者案内、サービスの提供に努めて実施した。	・緑地の管理業務を行うために必要な知識と技術を持つ、経験豊富な職員が配置されていた。 ・繁忙期には臨時スタッフによる駐車場誘導を行なう等、的確な管理体制の確保に努めていた。 ・緑地を心地よく安全に利用してもらうための職員配置を行っている。	A

(様式2)

収支状況	・指定管理料収入31,736千円。支出31,736千円 指定管理収支においては、実施作業等への優先順位付により収支バランス良く効率的に管理運営ができた。 ・自主事業収入552.5千円。支出552.5千円 公園利用者へ便益性の向上を図るため自動販売機を設置。また、窓口での記念品販売に加え、クラフト教室等体験教室開催により参加料収入に務め事業実施における収支においてはバランスよく効率的に活用した。	・限られた予算の中で、緑地利用者へのサービス低下に繋がらないよう配慮し、適切に管理運営が行われていた。	B
総合評価	・運営・維持管理においては、植物管理をはじめ、施設管理、利活用、市民会議活動に関する業務、環境学習プログラムの実施など、円滑に運営することができた。 特に植物管理においては、緑地内の貴重な資源である希少植物の保全活用により、自然資源を活用したイベントや環境学習プログラムの実施を通じて、地域の自然環境や長野県の豊かな環境を普及啓発できた。 ・また、展示施設においては、新たな写真や標本を収集・製作し、烏川溪谷緑地らしい、野生生物をテーマとする展示解説に活用し、利用者に楽しんでいただくとともに、地域の豊かな自然環境について学ぶ機会を創出し、環境保全や環境保護の取組の重要性や野生生物とのかかわり方等に関する、普及啓発の一助となるべく取組を実施した。 ・利用者アンケートなどから、お客様からの声として好評価をいただき、一定の水準を確保すべく、指定管理業務が実施できた。	・利用者アンケート・イベント参加者へのアンケート調査から烏川溪谷緑地の運営の目的である「そこにある自然と触れ合う」ことができる場所として好評な評価が得られている。また、安曇野市内および近隣市町村からは環境学習の場として不可欠な存在として頼りにされており、他箇所からの環境学習の依頼も多い。イベントについても数少ない大人の環境学習の場となっており、ファンも多い。公園管理に加え、動植物に高い専門性を持つ職員により独自性の強い個性的な都市公園の運営を行っている。引き続き良好な管理運営をしていただきたい。 ・指定管理者により提出された収支状況等資料から、各運営経費が高騰する中で効果的な管理運営の努力がなされていると判断できる。	A

＜評価区分＞ A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項 目	指 定 管 理 者	所 管 課
施設の管理運営の課題	・災害発生時及び土砂災害警戒区域(土石流)指定区域内における警戒情報等発表時の利用者並びに職員の安全確保。(吊り橋北側、皆伐地等指定区域外への避難小屋設置等) ・森林エリア学習棟の使用に関する外部からの問い合わせの増加。貸し出しの有無、使用料金徴収の有無、貸出基準等運用に関する整理、検討が必要。 ・施設の経年劣化対策、長寿命化対策が急務。 ・管理事務所閉所時間帯(職員不在時間帯)のトイレ等利用に関する安全管理、保安対策。 ・公園内樹木の成長に伴う巨木化による、倒木・落枝の危険性の増大。芯材腐朽による倒木可能性木の検証の必要性と実施方針の検討。 ・管理事務所閉所時間帯(職員不在時間帯)のたき火、バーベキュー対策。(長野県との協力により、利用方法の周知、マナーの向上が進んでいる。)	・令和6年度に職員対象の危険箇所避難等の防災学習会を実施。また、現在緊急時対応マニュアルの見直し検討を行っている。 ・指定管理者と協議をしながら、貸し出しについてのルールを検討していきたい。 ・令和6年度までは令和2年度の長寿命化計画に沿って施設修繕を行ってきたが、木製施設が多いため計画通りの劣化とまらない箇所が多く、令和7年度より施設の再編を含め長寿命化の見直しを実施する。 ・対策の一つとして、クマ監視カメラの利用により、トイレ周辺の夜間の監視を開始した。 ・指定管理者と協議をしながら、小規模工事等により、緊急性の高い樹木を除去している。 ・指定管理者と協力し、利用者にマナー向上の協力を呼び掛けたい。(利用方法が周知され、マナーの向上が見られ、ごみ等の放置は減っている。)

10 第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況(第三者評価実施年度の翌年度以降に記載)

【実施年月日:令和 年 月 日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課